2019 年冬号

夕日に染まる雪の大山

冬の山陰は厚い雲が空を覆い、晴れ渡る空を望むのが難しい季節です。時雨たかと思えば日が差し、また雪が舞うといった回り舞台のような目まぐるしい天候の変化があります。そんな季節だからこそ、青空の元で見る純白の雪をかぶった大山の美しさは格別のものがあります。

その冬の大山の景観で特に美しいのが、夕陽に照らされた大山です。西陽によって雪が薄桃色に染まるその様は、艶やかでまた神秘的です。冬期に4、5回ぐらい、しかも陽が沈む直前の10数分しかその姿を拝めません。今冬は何度その姿が見られるのでしょうか。

秋期　自然ふれあい事業　活動報告

○秋の渓畔林を歩く。山陰の奥入瀬「木谷沢」

10月30日（水）

紅葉の木谷沢渓流をゆったり散策。トチノキやサワグルミなどの巨木の森で心癒すオルガニートの演奏もあり、秋の一日を満喫しました。

○奥大山古道ウォーク（共催事業）

11月10日（日）

かつて大山寺へ向かう参拝者が通った道を歩く恒例のイベント。今年も100名を超える参加者が紅葉の映える歴史の道を堪能しました。

※12月7日の「森のリースとオブジェづくり」は諸事情により中止しました。

■大山頂上工事　冬期のお知らせ■

大山頂上（避難小屋、頂上付近木道）及び6合目避難小屋は、2019年7月から工事中です。

●頂上避難小屋より上部の木道は引き続き立入ができません。

●大山頂上避難小屋は、最低限の避難小屋として利用可能です。今冬は屋根と壁と非水洗トイレ1基があるという状況です（内装工事は2020年に予定）。そのため宿泊目的の登山はご遠慮ください。また、電灯もありませんので、ヘッドランプ等が必要です。

※左写真は2019年11月27日撮影

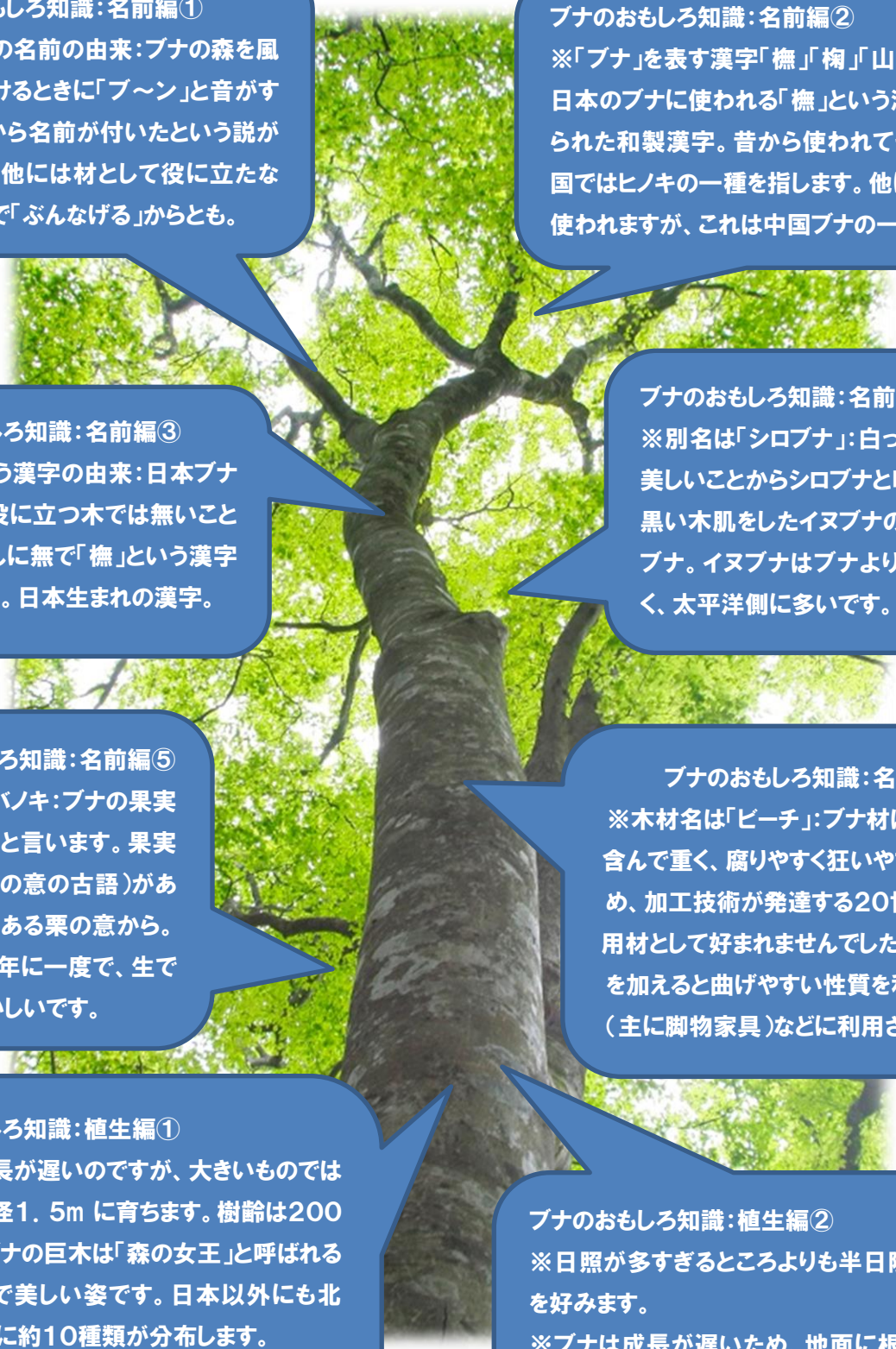
●6合目避難小屋は、お使いいただけない可能性があります。

詳しくは　鳥取県西部総合事務所　生活環境局　のHP（右QRコード）でご確認ください。

■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。
予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。
裏面にイベント情報を掲載しています。

○ ブナのおもしろ知識 ○

ブナは北海道の渡島半島から九州までの湿潤で肥沃な山地に分布し、ミズナラと並んで日本の広葉樹林を代表する樹木です。 特に北国の豪雪地帯に多く、世界遺産となった白神山地のブナの原生林が有名です。ここ大山にも西日本最大のブナ林が存在します。



ブナのおもしろ知識：名前編①
※「ブナ」の名前の由来：ブナの森を風が通り抜けるときに「ブ～ン」と音がする？ことから名前が付いたという説があります。他には材として役に立たない木なので「ぶんなげる」からとも。

ブナのおもしろ知識：名前編②
※「ブナ」を表す漢字「橅」「椈」「山毛欅」：現在、日本のブナに使われる「橅」という漢字は近年作られた和製漢字。昔から使われてきた「椈」は中国ではヒノキの一種を指します。他に「山毛欅」が使われますが、これは中国ブナの一種のこと。

ブナのおもしろ知識：名前編③
※「橅」という漢字の由来：日本ブナは材として役に立つ木では無いことから、木へんに無で「橅」という漢字ができました。日本生まれの漢字。

ブナのおもしろ知識：名前編④
※別名は「シロブナ」：白っぽい樹皮が美しいことからシロブナと呼ばれます。黒い木肌をしたイヌブナの別名がクロブナ。イヌブナはブナよりも寒さに弱く、太平洋側に多いです。

ブナのおもしろ知識：名前編⑤
※古名はソバノキ：ブナの果実を「ソバグリ」と言います。果実にソバ（稜角の意の古語）がある木、ソバのある栗の意から。豊作は6、7年に一度で、生で食べてもおいしいです。

ブナのおもしろ知識：名前編⑥
※木材名は「ビーチ」：ブナ材は水を大量に含んで重く、腐りやすく狂いやすい性質のため、加工技術が発達する20世紀後半まで用材として好まれませんでした。現在では熱を加えると曲げやすい性質を利用して家具（主に脚物家具）などに利用されています。

ブナのおもしろ知識：植生編①
※ブナは成長が遅いのですが、大きいものでは高さ30m，径1．5m に育ちます。樹齢は200年ぐらい。ブナの巨木は「森の女王」と呼ばれるような雄大で美しい姿です。日本以外にも北半球の温帯に約10種類が分布します。
※日本の都道府県でブナが自生していないのは千葉県と沖縄県のみ。大山では標高700～1300メートル付近に生えています。

ブナのおもしろ知識：植生編②
※日照が多すぎるところよりも半日陰程度の場所を好みます。
※ブナは成長が遅いため、地面に根を下ろしてから約50年から60年かけて初めて実をつけます。
※大山寺周辺では例年9月20日前後に実を落します。